

「胞状奇胎に対する子宮内容除去術施行回数変更の検討」：医学情報の研究利用について

名古屋大学医学部附属病院産婦人科では、胞状奇胎、侵入奇胎や絨毛癌などの絨毛性疾患の診療・研究を行っております。このたび、「胞状奇胎に対する子宮内容除去術施行回数変更の検討」という臨床研究を施行することになりました。目的は、現在標準治療とされている2回の子宮内容除去術を、1回に変更した場合の胞状奇胎後の続発症発症率を調べることです。続発率が変わらないことを確認できれば、子宮内容除去術を1回に減らすことができる可能性があります。そのため、これまでに2回の子宮内容除去術で治療された胞状奇胎の症例についての調査が必要となります。

調査対象となるのは2002年以降、胞状奇胎に対する子宮内容除去術2回後の1年間を当院で経過観察された患者さんです。調査項目は診断名、病理診断、hCG値、続発症発症の有無などです。データ上、すべての患者さんは匿名化されて管理され、これらの情報が外部に漏れることはありませんし、何らかの負担が生じることもありません。今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがあります。

本研究の調査対象の患者さんで調査に同意されない方はお申し出ください。

この件に関しまして、ご質問などがございましたら、担当医に遠慮なくお尋ねください。

名古屋大学医学部附属病院産婦人科

研究責任者 山本 英子

電話：052-744-2261